

平成30年度第2回文化財修復検討部会での意見と対応等一覧表

No.	提案者	意見	対応
3. 熊本城復旧の取り組み状況について			
1	長谷川委員	博物館が12月1日に開館という事だが、従来大天守で展示されていた細川家舟屋形は展示・見学できるのか。	予定通り展示される。(展示中)
4. 前回部会での意見と対応策			
1	和田委員	大天守出口の安全対策の柱の色は。	平井委員長に見本を確認してもらいシルバーに決定。
5. 報告事項			
1	北野委員	来場者の動線ルートを確保する前提の安定性から石垣の構造変更を行う議論ではなく、ルートの変更も行うことも検討すべき。多重防災で多角的に防災力を高める検討も。	来場者の動線について、石垣からの離隔や立ち入り規制も含めて検討する。
2	北野委員	宇土櫓石垣の検討は石垣・構造解析合同ワーキングで議論すべき。	今後合同ワーキング等開催など効果的な運営を実施する。
3	和田委員	コンピューターによる石垣構造解析は課題が多い。	今後、石垣の実験等で検討する。
4	北野委員 田中部会長	江戸期の積み方がどれだけ構造補強に役立つか解析してほしい。	今後、検討する。
5	田中部会長	飯田丸五階櫓の石垣について、石垣勾配と石材損傷の分析を含めて解体範囲を検討すること。	解体範囲を検討中。
6	田中部会長	長塀の調査で確認された遺構は破壊しないこと。	補強基礎の設計を変更して保護する。
7	田中部会長 長谷川委員	構造解析ワーキングで必要に応じて石垣の実験をしてほしい。	今後、検討する。